

◇実践活動記録

第3学年 「知りたい 伝えたい 高野校区のたからもの」

1 ねらい

- ・高野校区を探検し、様々な場所に興味をもち、「たからもの」である場所や事柄を決め、それについて調べたい課題を選ぶことができる。
- ・高野校区の「たからもの」について、継続して調べたり、さらに疑問をもったりすることができる。
- ・高野校区の「たからもの」を、他の学年や保護者に発信するために、表現方法を考えたり、分かりやすくまとめて発表したりすることができる。



2 活動内容

- 5月12日 立山町交番見学
- 5月31日 コンビニ跡にて、県道を通る観光バスの台数やナンバープレートの都道府県を調べた。
- 6月6日 介護施設（虹の丘）見学
- 6月23日 校区の用水や小川で、生き物の種類や数を調べた。
- 6月30日 コンビニ跡にて、県道を通る観光バスの台数やナンバープレートの都道府県を調べた。
- 10月25日 コンビニ跡にて、県道を通る観光バスの台数やナンバープレートの都道府県を調べた。
- 他に、1、2学期の総合的な学習の時間の授業で 学校畑横の小川の生き物調査や昆虫調査を行う。

児童は、「高野の景色、建物」「高野の観光バス」「高野の川の生き物」「高野の昆虫」「高野の動物」の5つの課題に分かれて活動を繰り返した。上記は、3年生全員で活動した日程と内容である。

学校での活動の他に、土日や夏休みに自分の課題を探究する活動を繰り返した。校区にアンケートを配布して書いてもらったり、実際に観光客にインタビューをしたりして活動した。また、実際に家族と川の生き物調査や、動物調査をしている児童も多く見られた。

3 児童の様子

(1) 児童の感想

- ・高野校区にこんなにもたくさんの川の生き物が棲んでいることを知り、びっくりしました。きっと、川がきれいだからなのだと思います。
- ・高野校区の道路をたくさんの観光バスが通ることが分かりました。また、そのバスが全国から来ていることに驚きました。バスが、「立山黒部アルペンルート」へ向かうということを知りました。
- ・高野校区の人々は、高野校区から見える立山連峰の景色が好きだということがアンケートから分かりました。私もこの景色が大好きです。



(2) 児童に付いた力

- ・校区の「たからもの」を探究する力
- ・仲間と協力して、調査結果をまとめ、考察する力
- ・意欲的に学習に取り組む力



4 成果と課題

(1) 成果

- ・いつも何気なく過ごしている高野校区に、たくさんの「たからもの」があるということを知り、地域を誇りに思い、大切にしようとする心が育った。
- ・児童は、総合的な学習の時間が大好きで、担任が指示しなくても自分たちで考えて学習を進めることができるようになってきている。見通しをもち、主体的に追究することができるようになってきた。
- ・友達の追究のよさに気付き、自分もやってみようとする児童が多く見られた。
- ・追究の中で、データを多くとり、その結果から客観的に考察できるようになってきている。

(2) 課題

- ・児童の課題に応じて活動したいが、支援できる教員の数が限られている。特に、学校の授業中の活動は、課題が多岐にわたっているため、全員で友達の課題について活動しなければならないこともある。
- ・活動期間、まとめの期間、発表会の日程を提示し、見通しをもって活動できるようにしてきた。しかし、児童の意欲の高まりにより、その予定通りにはいかないこともあった。児童の主体性を大切にすると、学習の計画との折り合いをつけることが難しい。

児童が、高野校区に配布し書いてもらったアンケート

アンケート (名前) _____

(大人の方が読んでください)

ぼくたちわたしたち3年生は「えごう
てきな 学習の時間」で高野校区の
けしきとぜんぜん、しらべています。
高野校区内のけしきとどんなけしきが
すきか教えてください。

(たんぽ・山・ゆう日・たてもの・そのた)

※れをつけてください。

ききなけしき
そのりゆう

おねがい
ききなけしきでどんなところ
がすきなのか、りゆう
も書いてください。

ありがとう
ございました。

高野小学校のみなさんは12月4日までとたんたんの先生にたしびがさい
とねくのみなさんは12月9日までにとりにいます。 高野小学校3年生

3年生は、総合的な学習の時間に「知りたい、伝えたい、高野のたからもの」というテーマで学習しています。課題ごとにグループで活動したり、アンケートをとったりして調査活動を行っています。上記のアンケートについて、ご協力をお願いいたします。

立山町立高野小学校 3年担任 小杉 友美

アンケート (名前) _____

ぼくたち3年生は「えごうてきな学習の時間」で高野校区の生主物を探っています。そのためアンケートのきょう力を考えています。

①高野校区のなまえを見たことがありますか？とらふかねれ
まつてくさい。

②どんな魚を見たことがありますか？(はし・いりい)

もめも書いてください。(アユ、ニジマスなど)

高野小学校通学路

高野小学校校区

③どこでこの魚がいましたか？いた場所を地図でかいてください。(学校内)

④ぜんぶで何匹見ましたか？

⑤ぜんぶで何回見ましたか？

ありがとうございました。
12月10日にとりにけず
ます。

第4学年 「農業にチャレンジ」

1 ねらい

- ・ゲストティーチャーの話を聞くことで、米やコンニャクイモの育て方を詳しく知り、自分なりにその魅力に迫ることができる。
- ・イネが米になる過程やコンニャクイモがこんにやくになる過程で、育ち具合における発見や疑問点等を自分なりに見付けたりまとめたりすることができる。

2 活動内容

- 4月27日 コンニャクイモを畑に植えた。
- 5月24日 昔の農器具で稲を植える目安を付けて、稲を手植えた。
- 7月14日 鎌を用いて田んぼの草取りをした。
- 9月15日 米を収穫し、イネの他の部分は肥料として田んぼに散布した。
- 10月13日 コンニャクイモの収穫をした。
- 11月30日 保護者と共に、収穫したコンニャクイモを用いて、こんにやくを作った。また、こんにやくに合う味噌も作った。

上記の活動以外に1学期は植えたイネやコンニャクイモの観察をしたり、本やインターネットを用いてどのように生育するか調べたりした。また、新聞で農業についての記事を見つけた。2学期は米の調理方法や品種ごとの違い等、自分が興味をもったことや、こんにやくのレシピについて調べた。

3 児童の様子

(1) 児童の感想

- ・コンニャクイモは薬品が付いているので、軍手を付けて植えました。植えたら水やりや草むしり、観察等をしました。収穫するときにくわを使ったら、コンニャクイモを傷つけてしまいとても残念でした。
- ・包丁やおろし金が上手に使えなくてコンニャクイモを細かくするのが大変でした。おろす、切る、つぶす等料理はどれも難しかったです。いつも料理を作ってくれる家族のありがたみを感じました。料理を作ってくれる人に感謝をしたいです。
- ・「ころがし」という昔の道具を使って印をつけて、田植えをしました。転んで、服が泥だらけになりました。草取りも大変だったけれど、「こんなに汗をいっぱいかくと気持ちいいでしょ」と言われ、がんばりました。
- ・稲刈りをする時に、7月の終わりよりイネがすごく成長していて驚きました。根元から5cmのところを切り、後で取りやすいように八の字で置いていきました。精米してもらったお米は30kgもあり、とても重かったです。こんなに収穫できて嬉しい気持ちになりました。



(2) 児童に付いた力

- ・ゲストティーチャーの話を聞いて、稲刈りのやり方やこんにやくの作り方を学ぶことができた。
- ・進んで草取りや水やりをし、よりよく育つように取り組むことができた。
→進んで関わる力
- ・成長したイネやコンニャクイモを、五感を用いて観察し、育ち具合について気付くことができた。「米粒はいくつあるのかな」「コンニャクイモはざらざらしていて大きくなるんだ」など疑問や驚きを見付けることができた。
→課題を見付ける力

4 成果と課題

(1) 成果

- ・イネやコンニャクイモを、半年間にわたって育てることで、児童は愛着をもって作物を育てることができた。稲刈りでは、「腰が痛い。機械を使ったら早くきれいにできるのに」「昔の人たちはこれより広い田を刈っていたなんてすごい」など、農家の人への感謝の気持ちや昔の人たちに尊敬の気持ちをもつことができた。
- ・コンニャクイモは児童にとって馴染みのない作物であったが、ゲストティーチャーからコンニャクイモの育て方等様々なことを学び、愛着をもつことができた。こんにやくを作ることは難しかったが、市販のこんにやくと違う味わいや、いつも料理を作ってくれる家族への感謝の気持ちをもつことができた。

(2) 課題

- ・1学期はイネやコンニャクイモの観察記録を細めにとるべきだった。見通しや目当てをもって、活動に取り組めるようにしていく。
- ・本やインターネットばかりではなく、ゲストティーチャーへのインタビューの時間を設けるなど、実際に見聞きできることを大切にすべきであった。事前の指導や活動後の振り返りを計画的に行い、活動ごとにつながりをもったものにしていく。

第5学年 「保育園の子供たちとなかよしになろう」

1 ねらい

- ・保育園児と仲よくなるための様々な方法を考え、仲間と協力して交流の準備を行い、積極的に関わることができる。
- ・調べたことや体験したことを、プレゼンテーションソフト等を活用して分かりやすく表現したり、小さな子供やお年寄りのために自分にできることを考え、実行したりすることができる。

2 活動内容

- 6月13日 交流① 自己紹介・全員での遊び・グループ遊び（高原保育園にて）
9月24日 体育大会（来入児レースの企画・運営）
10月16日 交流② グループ遊び（高原保育園にて）
10月12日 就学時健診（会場の準備と後片付け・係の仕事（受付・児童係・診察の補助等）
（高野小にて）
12月7日 交流③ 学校探検（高野小学校にて）

3 児童の様子

(1) 児童の感想

- ・園児が「ドッジボールがいい」「紙飛行機を作りたい」ともめたので、じゃんけんをしたら、負けた方が泣いてしまいました。でも、「どっちもやろう」と声をかけ、仲よく遊ぶことができました。
- ・「3時のおやつ」のルールが分かっていない子がいました。遊びの説明は、大きな声でゆっくりと言え、ルールを覚えて楽しく遊べると思います。
- ・「1年生になるのが楽しみだな」と思ってもらえるように、「ここは〇〇をすることだよ」などと声をかけながら学校探検をしました。クイズに答えたり、スタンプを押したりしながら学校を探検すると、みんなが笑顔になったので、私も嬉しくなりました。

(2) 児童に付いた力

- ・より仲よくなるためにはどうすればよいか、相手の立場に立って活動内容を工夫したり、関わり方を考えたりする力
- ・年下の子供たちに自分から話しかけたり、遊びに誘ったりするなど、積極的に関わる力



4 成果と課題

(1) 成果

- ・「名前を呼び合えるくらいの仲よしになりたい」という思いから、そのためにどうすればよいかを一人一人が考えたり、みんなで話し合ったりする場を大切にしてきたので、交流を重ねる度に仲よくなることができた。
- ・3回の交流は同じグループで行ったので、互いの顔や名前を覚えることができ、仲よくなることにつながった。
- ・5年生としての自覚をもち、園児に思いやりの気持ちをもって関わる姿が見られた。

(2) 課題

- ・見通しをもって活動に取り組んだり、より広い視野で物事をとらえたりするのが苦手な児童が多いので、目当てをしっかりともち、計画的に取り組めるよう指導していく。
- ・積極的に園児と関われない児童がいる。来年度に向けて、縦割り班での活動内容を充実させたり、全校児童が参加できるような楽しい企画を工夫したりしながら、年下の子供たちとの関わる機会を増やしていきたい。

第6学年 「発見！立山の魅力」

1 ねらい

- ・自分たちの住む地域の象徴である立山について、自分が興味をひかれたものを「立山の魅力」として課題に設定し、資料やインターネットを活用して進んで調べることができる。
- ・調べたことを、プレゼンテーションソフトを用いて工夫してまとめ、分かりやすく友達や家族に伝えることができる。

2 活動内容

- 5月30日 雪の大谷見学、立山カルデラ砂防博物館見学（宿泊学習）
- 6月9日 富山県[立山博物館]見学（校外学習）
- 7月26日 立山登山（課外）
- 10月5日 弥陀ヶ原湿原散策（校外学習）
- 2月17日 「発見！立山の魅力」発表会（予定）



3 児童の様子

(1) 児童の感想

- ・立山が大昔は火山だったことは知らなかった。今の様子からはなかなか想像できない。今でも火山活動が続いていると知って驚いた。
- ・自分たちが今、安心して暮らせるのは、治水や砂防に関わったたくさんの人々の苦勞のおかげなのだと分かった。感謝の気持ちを忘れないようにしたい。
- ・立山には珍しい高山植物がたくさんあると分かった。ガイドの方に高山植物の名前の由来や特徴等を詳しく教えてもらうことができてよかった。
- ・高山植物の名前に「タテヤマ」とつくものがあると教えてもらって、高山植物に興味をもった。どんなものがあるか詳しく調べてみようと思った。

(2) 児童に付いた力

- ・校外学習や宿泊学習等の体験活動を通して、立山について自分で課題を設定し、調べようとする力
- ・学芸員やガイドの方に分からないことを質問したり、資料やインターネットを利用して検索したりするなど、詳しく知りたいことについて積極的に調べる力
- ・調べて分かったことや、感じたことを自分の言葉で分かりやすくまとめようとする力

4 成果と課題

(1) 成果

- ・博物館の見学や校外学習を通して、今までにあまり触れることのなかった立山の自然や歴史に実際に触れ、立山の雄大さや美しさ、人々の努力や知恵を改めて感じる事ができた。
- ・弥陀ヶ原湿原散策では、地域在住の方をガイドとして招き、解説していただくことで、地域の方との交流を深めることに加え、地域に残る自然や文化をこれからも大切にしていこうという気持ちを高めることができた。

(2) 課題

- ・学校で調べ学習を進める際に、児童の課題に適した資料を事前に確認しておく。
- ・児童がそれぞれの活動の目当てやねらいを明確にして取り組めるように、単元構想を立てて進める。

